

持続可能な地域連携・協働 とするための教頭の役割

～学校運営協議会・地域学校協働活動を中心として～

1 主題設定の理由

岡山県浅口地区

矢掛町

金光町

鴨方町



笠岡市



浅口市

里庄町

寄島町



2 研究のねらい

浅口地区全体の
地域連携・協働の
活性化

将来を見通した持続可能な地域連携・協働のあり方や教頭の役割について考える

学運協・協働活動を中心とした地域連携・協働の実態や課題を明らかにすること

3 研究の経過

- (1) 現状把握のためのアンケート実施
- (2) 情報交換会と講演会の実施
- (3) 実践報告
- (4) 持続可能な地域連携・協働にするための
教頭の役割

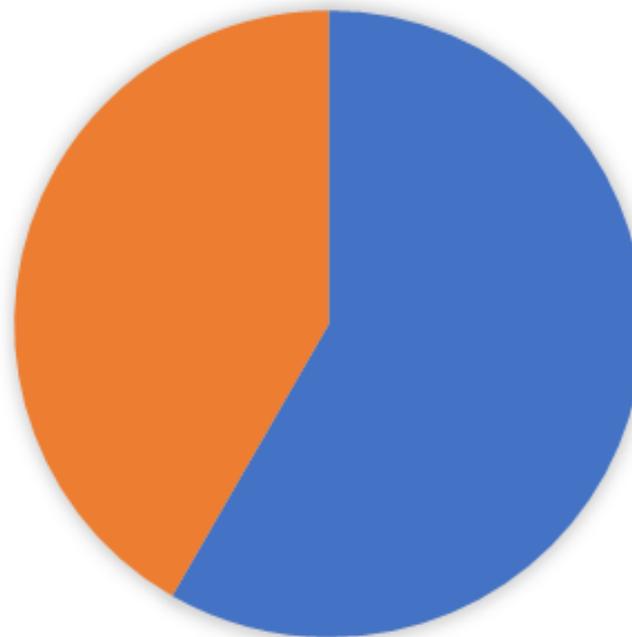
4 研究の概要

(1) アンケートの実施

学校運営協議会の形態について

学校運営協議会の設置

学校で設置
42%



中学校区で設置
58%

4 研究の概要

(1) アンケートの実施

学運協委員数

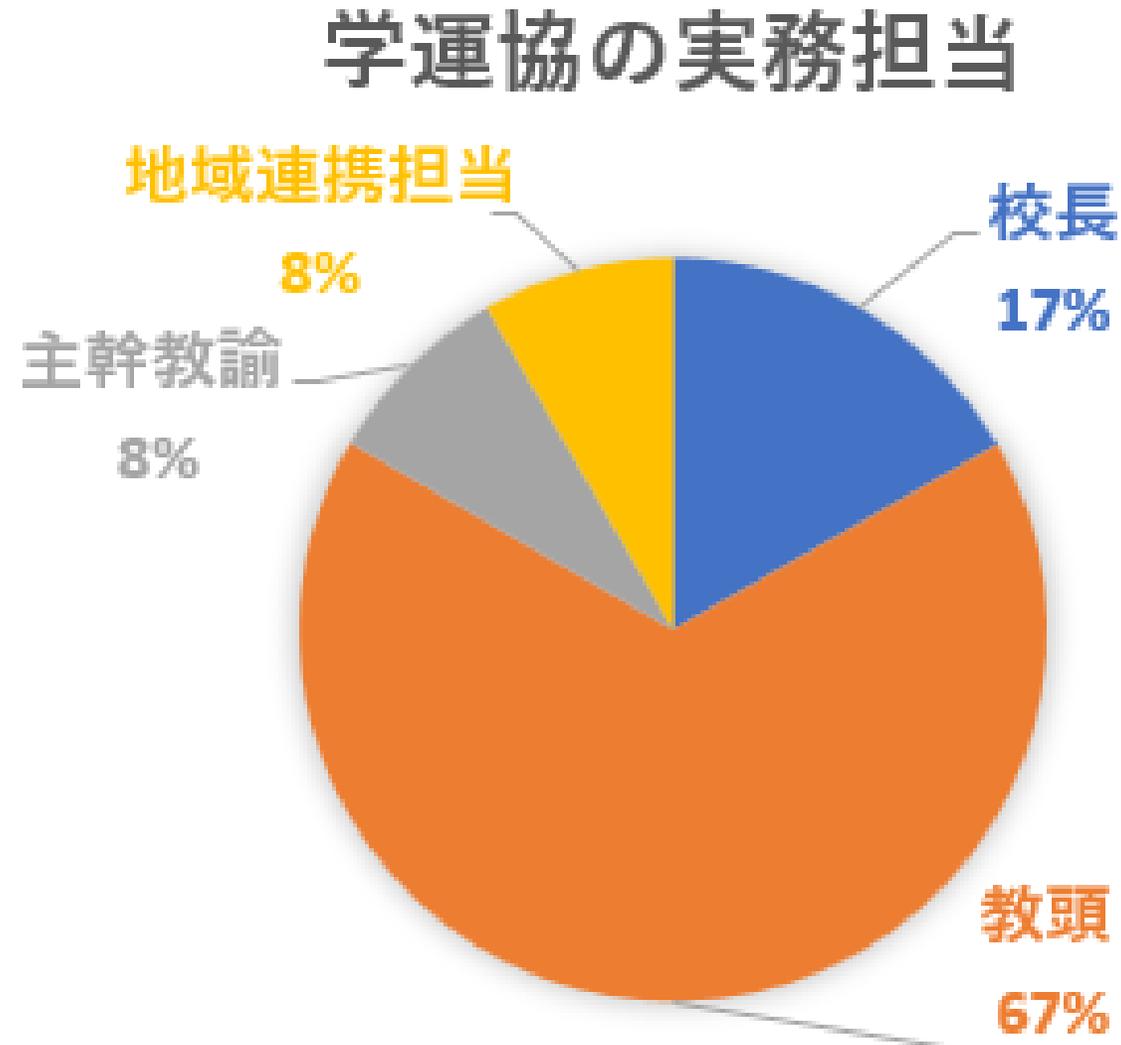
委員数	回答数
10人	2
11人	1
12人	0
13人	2
14人	1
15人	1
16人	2
17人	3

委員の構成

所属	回答数	所属	回答数
有識者	11	市議会議員	2
PTA役員	10	町内会長	1
地域学校協働活動推進員	9	人権擁護委員	1
学校支援ボランティア	6	放課後児童クラブ指導員	1
民生委員・主任児童委員	6	更生保護女性会	1
元PTA会長	3	愛育委員	1
大学院教授	3	青少年育成協議会	1
老人会関係者	2	地域支援員	1
地域企業	2	漁業協同組合関係者	1
同窓会関係者	2		

4 研究の概要

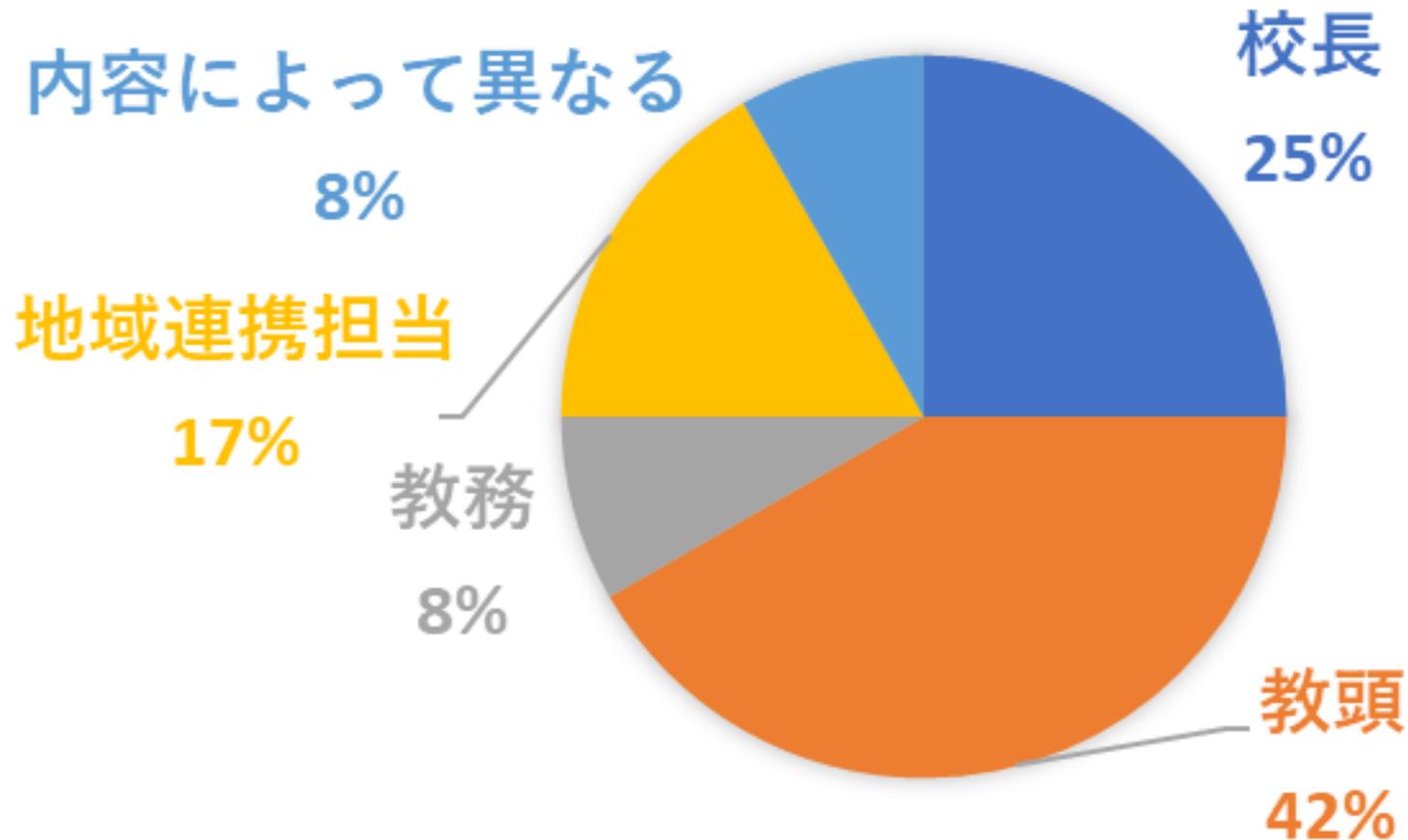
(1) アンケートの実施



4 研究の概要

(1) アンケートの実施

地域学校協働活動推進員との連絡係



4 研究の概要

(1) アンケートの実施

学運協に取り組むメリット

- 学校と地域が分かり合い連携がしやすい、頼みやすい、地域との信頼関係が築ける。
- 地域の教材を生かした学習ができる。
- 生徒と地域のつながりができる、それを生かした活動もできる。
- 異校種間の交流ができる（複数の学校園で一つの学運協組織の場合）
- 「めざす子ども像」を共通理解できて、それをもとに児童・生徒の育成を図れる。
- 地域の交通安全や防災、危険箇所などについて重要性や課題について認識できた。
- 様々な方が子ども達のことを考えてくれると実感する。

4 研究の概要

(1) アンケートの実施

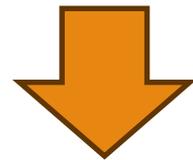
学運協の取組についての悩み

学①日程調整や資料準備等，実務の分担をして教頭の負担軽減を図りたい。

学②学校地域における課題をどのように共有・協議しているのか知りたい。

学③学運協で決まったことを，地域学校協働活動本部につなげたい。

学④教頭がもっと教職員に周知する必要がある。



他校の具体的な取組が知りたい

4 研究の概要

(1) アンケートの実施

地域学校協働活動本部に取り組むメリット

- 学習支援が助かっている，安全に活動できる，豊かな学びにつながる。
- 地域の方とつながる。児童生徒との交流が深まる。
- 地域の特色を生かした総合が組める。
- 地域の方の生きがいにつながる
- 環境整備を手伝っていただける。
- 教員の負担が減る。
- 地域の良さを知る。
- 地域や保護者の学校運営への参画。

4 研究の概要

(1) アンケートの実施

地域学校協働活動活動の取組についての悩み

地①活動自体がほとんどないので分からない。奉仕作業以外の活動でどんなことがお願いできるのか知りたい。

地②ボランティアの調整を教頭がしていてたいへん。

地③まとめ役がない。

地④地域の方々が滞在できたり相談したりしやすい環境づくりが必要。

地⑤お茶や備品等を購入するお金が足りない。



他校の具体的な取組が知りたい

4 研究の概要

(2) 情報交換会の実施



- 異なる地区の取組を聞けるようグループ構成
- 取組の紹介，運営上の問題や悩み等について情報交換

4 研究の概要

(2) 情報交換会の実施

地① 地域学校協働活動の内容

◇授業の補助

(習字, ミシン, 調理, 彫刻刀やのこぎり指導, 九九, 校外学習引率)

◇環境整備活動(草取り, 奉仕作業など)

◇体験活動<季節ごと>

◇登下校の見守り

◇漢字検定

◇読み聞かせ

◇安全教室

◇キャンプ・トレッキング

◇あいさつ運動

4 研究の概要

(2) 情報交換会の実施

学①・地② 連絡調整等に係る負担軽減について

- ◇ 休日に取り組んでいた「米作りや桃作り」などを教育課程に位置づけて取り組むことにした。いつ、どういう内容で支援が必要なのか校内で協議して年間計画を立て、学区全戸にボランティアの募集を呼びかけた。活動する際、地域をよく知る地域学校協働活動推進員に連絡調整してもらった。
- ◇ 3小学校・1中学校で構成されている地区では、各校の教頭は4回実施される学運協会議の実務(案内・要項・資料事前配布等)を年1回ずつ分担している。学運協の会議は、事前に3小学校1中学校の校長と学運協の会長とで企画を行いスムーズに進行できるようにしている。
- ◇ 地域連携担当が各学級担任からの要請により、地域学校協働活動推進員と連絡調整を行い、ボランティアにつないでいる。担任の先生方の働き方改革にもつながっている。

4 研究の概要

(2) 情報交換会の実施

学②課題の共有と解決に向けた協議

◇ 学運協委員，PTA役員，地域学校協同活動推進員，教職員，生徒代表が参加する熟議を行った。「めざす子ども像」や「めざす子ども像の実現に向けた3本柱」について協議することにより，今後の取組についての具体的な提案が出た。様々な立場の方がアイデアや意見を出し合い，それらを共有することで課題解決のための方向性が明確になり，次のステップに向かう原動力となった。

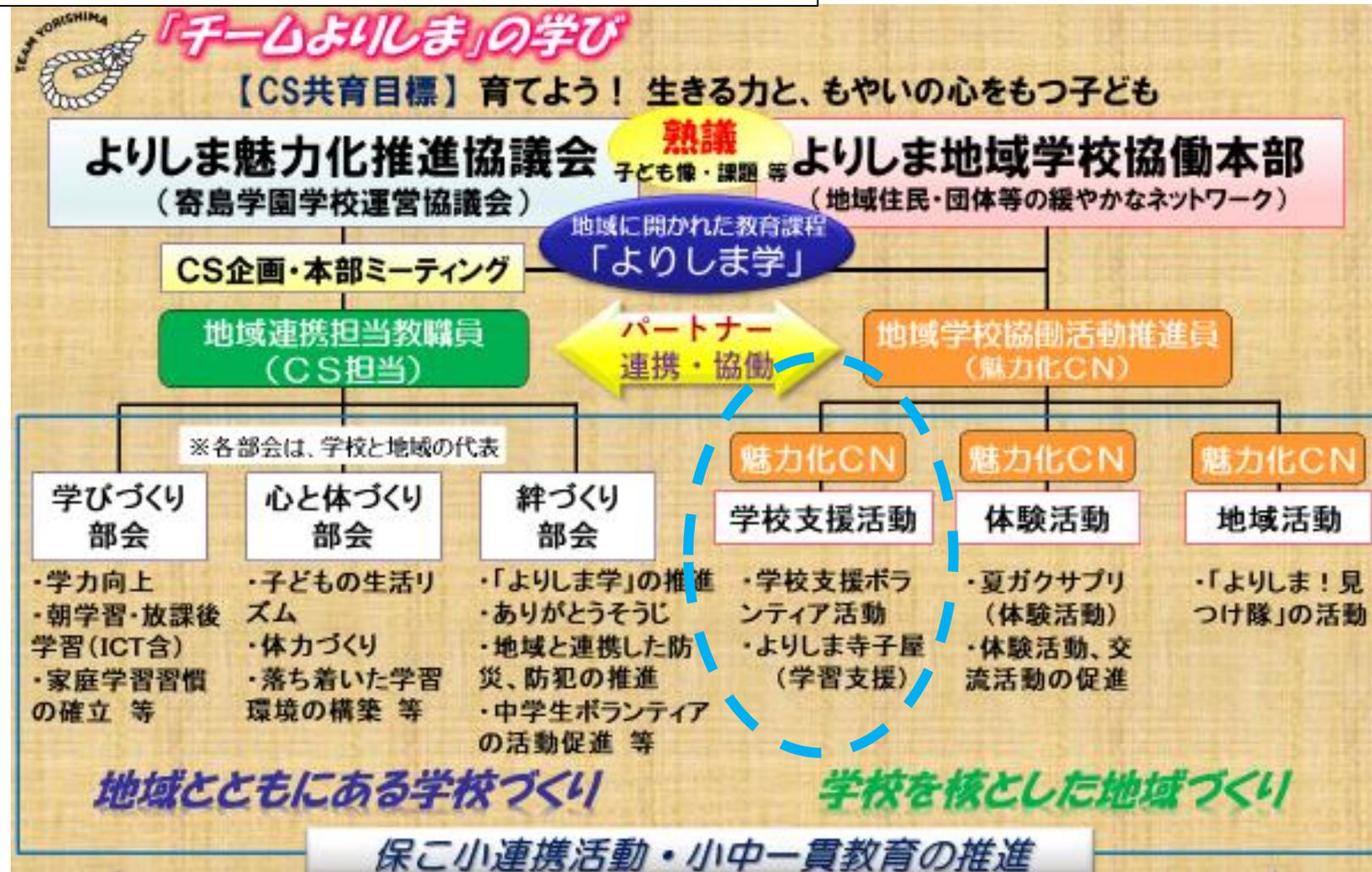
◇ 「地域の交通安全」をテーマに生徒会総務の生徒を交え熟議を行った。学区の地図を用いて，安全面の向上について話し合った。地域の危険箇所や生徒の事故につながりそうな行動などがそれぞれのグループからあげられた。対応策として「地域の方からの見守りや声かけ」「危険箇所の白線補修や道路工事」などがあげられた。その後，学校運営協議会の方が地域に協力を呼びかけた。



4 研究の概要

(2) 情報交換会の実施

学③・地③ 熟議したことを協働活動へ



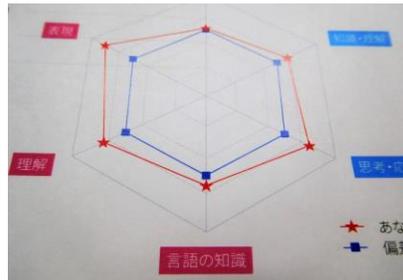
4 研究の概要

(2) 情報交換会の実施

学③・地③ 熟議したことを協働活動へ

<学テの結果と対策について>

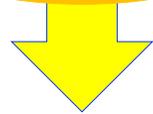
学力担当から、読解力が弱いという分析から対策を説明



Nコーディネーター
「地域でも、何か読書に関する取組をしなければ、図書館の司書さんに相談してみるわ」

Nコーディネーター
「私の学校支援活動部会で！」

そうする中で



CS担当
「どこの部会が担当しますか？」

日本漢字能力検定を学校運営協議会主催で、地域学校協働活動として実施してはどうかと情報が届く。読解力のベースとなり、効果があるのではないか！

4 研究の概要

(2) 情報交換会の実施

学③・地③ 熟議したことを協働活動へ



4 研究の概要

(2) 情報交換会の実施

地④地域の方々との相談・活動のための環境づくり

学校支援ボランティアとの打合せ



地域学校協働活動本部との打合せ



よりしまみつけ隊の活動



地域の方との交流



学運協部会会議



ボランティアスケジュール表

	実施日・内容	担当	ボランティア
1年生	5/8(木) 8:15~	片本・尾焼	
2年生	6/22(木) 8:15~	青作	
3年生	9/7(木) 8:15~	西原くろ 三郎 国良	
4年生	10/5(木) 8:15~	中新崎・早崎 交通 指導員	
5年生			
6年生			

4 研究の概要

(2) 情報交換会の実施

地⑤地域連携に係る経費について

<浅口市>

学校運営協議会で使用する消耗品費

地域学校協働活動で使用する食糧費
〃 消耗品費

地域学校推進員が使用できる消耗品費

4 研究の概要

(2) 情報交換会の実施

<感想>

- ◇これからどのように進めていけばよいか参考になった。
 - ◇地域によって差が大きいことが分かった。
 - ◇連携が進んでいる地域の実践は参考になった。それぞれの方法で地域とのつながりを深めていることが浅口地区の強みだ。
- ◇教職員に正しいことを伝える意味でも、「学運協と地域学校協働活動の関係性」, 「これらの意義」について学びたい。
 - ◇教職員の異動により, 取組を持続するのが難しいのではないか。
 - ◇地域連携について, 教職員が自分事として捉えることができるようにするにはどうすればよいのだろうか。



地域連携について研修する必要がある

4 研究の概要

(3) 講演会の実施

「コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進」

～地域と学校の連携・協働の必要性と可能性～

岡山県高梁市教育委員会社会教育課参事 安田 隆人先生

学校組織内の部会（チーム）参画意識の向上

地域に開かれた教育課程

学校と地域が協働して取り組むことの意義

熟議や対話 当事者意識

地域と学校の連携・協働

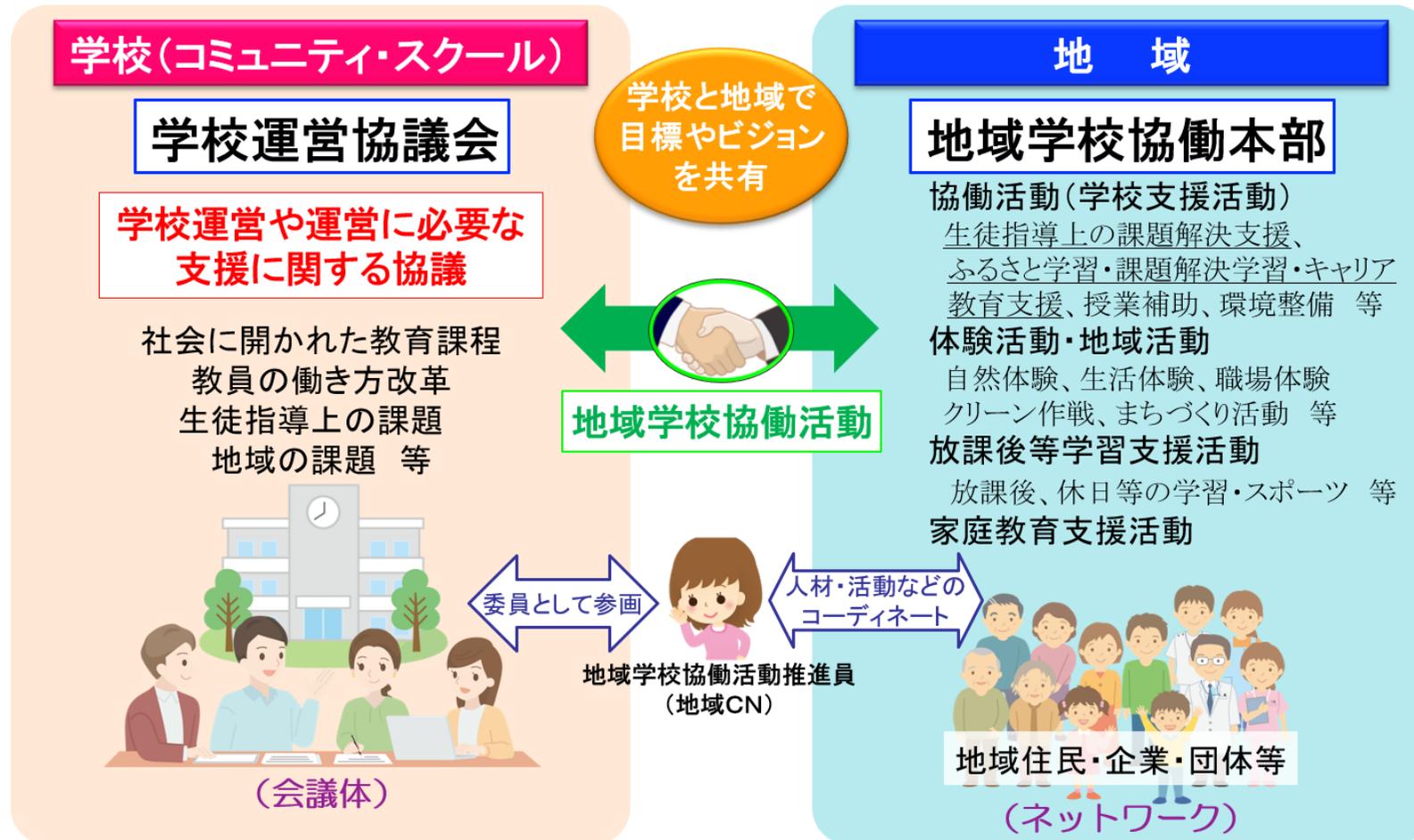
教職員の異動に左右されない継続性 ほか



4 研究の概要

(3) 講演会の実施

コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進とは



＜今まで＞
体験活動，授業補助，環境整備など学校支援活動

＜これから＞
○不登校や学力，働き方改革など学校の課題
○地域防災や地域貢献など地域の課題
○探究的な学習など教育課程の充実

4 研究の概要

(3) 講演会の実施

コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進によるメリット

<子ども>

- ・ 様々な人との関わりにより，社会性やコミュニケーション能力，自己肯定感等能力の向上
- ・ よき大人を見て育ち，自分自身もボランティア活動に関心をもつ等学びの循環 → 地域への愛着・貢献意識の向上（地域の担い手意識の向上）

<学校・教職員>

- ・ 教職員以外の人脈が増し学校外への視野の広がり，学校支援活動の活性化
- ・ 生徒指導上の問題等，学校の課題解決
→ 業務の負担や負担感の減少等働き方改革への一助
- ・ 地域学習等，教育の質の向上
- ・ 行事の改善等承認は，お墨付きをいただいたという後押しに！

4 研究の概要

(3) 講演会の実施

CSと地域学校協働活動の一体的推進によるメリット

<地域>

- ・ 学校が身近な存在に（おらが学校）
- ・ 人が人を呼び、子どもをサポートする体制の構築
（地域の子どもは地域で育てるという意識の向上）
- ・ 子どもと大人，大人同士の間関係の構築
→防犯性が高いまちづくり
- ・ 生きがいの実感，協力意識の高まり

子供たちがどのような課題を抱えているのか，学校と地域でどのような子供を育てていくのか，何を実現していくのかという「目標・ビジョンを共有」し，それを解決する組織的・継続的な体制の構築



教職員の異動に左右されない継続的な学校運営

4 研究の概要

(3) 講演会の実施

熟議の効果

※熟議をすること自体が目的ではない

- 子どもから高齢者まで，フラットな関係で同じ目線で，新たな気づきをもつことができる。
- 児童生徒にとって顔を付き合わせて大人と語る経験と，地域の大人への感謝
- 教職員と，地域や保護者との人間関係の構築
- 全教職員が参加することで，学校運営協議会は管理職の先生だけが関わるものではないという教職員の参画意識の向上



教職員が自分事としてとらえることができる

4 研究の概要

(2) 講演会の実施

持続可能な地域連携について

- 学運協委員が学運協の目的について正しく理解することが大切。報告のみの会議となり、会議をすることが目的化してしまわないように。
- 委員の意欲に左右されることのないよう、委員選定は学校や地域の課題解決や教育課程の充実へ向け、校長の思いを理解し、協力的な方、フットワークのある方等を選定。役職のみにとらわれない。
- 会議の中でもミニ熟議（アクティブ・ラーニング）等を取り入れ対話を重ね、当事者意識が高まるように工夫する。（話しやすい雰囲気づくり）
- 初発のエネルギー（立ち上げ時）は必要。人間関係が構築すると、風通しがよい関係となり課題解決等が進み、成果へとつながる。

4 研究の概要

(2) 講演会の実施

参加者の感想＜教頭の役割＞

- 学運協は学校長の考えの具現化を助けるもの、教頭や推進員はその補佐となることが大切ということが印象に残った。
- 地域のことを知っている、人脈のあるキーマンをしっかりと押さえることが必要であると感じた。
- 学校の担当だけでは限界があるので、しっかりと地域学校協働活動推進員と連携していきたい。
- 熟議にあたっては、話しやすい雰囲気をつくり、学校と地域の思いにズレが生じないように対話を重ねることが大切だということが分かった。

4 研究の概要

(3) 各校の実践報告の共有

事例1 全教職員参加の熟議「地域とともにつくる社会に開かれた教育課程」

学年	教科・領域	内容
1年	生活科	「季節を感じて」
2年	生活科	「野菜づくり」
3年	社会科 総合	「工場で働く人々」 「地域のすてきを見つけた」
4年	総合	「身の回りの環境」
5年	社会科	「農業で工夫する人々」
6年	社会科	「歴史学習(江戸時代の町のように)」

4 研究の概要

(3) 各校の実践報告の共有

事例1 全教職員参加の熟議「地域とともに」

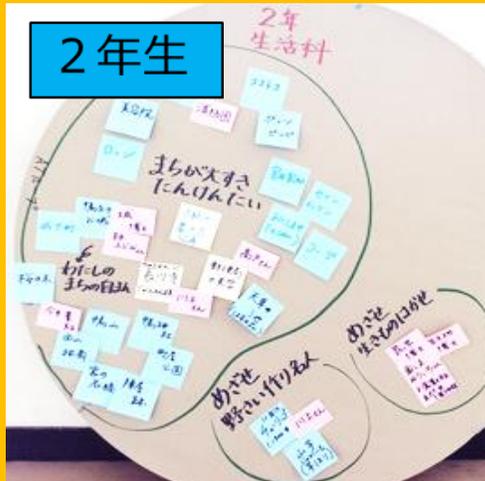


6年社会科グループ
鴨方藩の歴史について、地域の有識者の方の話を聞く
教員(左右)、保護者(左)、児童(手前2人)

6年生の様子



2年生



5年生



4 研究の概要

(3) 各校の実践報告の共有

事例1 全教職員や子ども参加の熟議

<教職員>

- ・ 鴨方には歴史などの「もの」がたくさんあることを教えていただき、教科と関連できそうなことの話ができてよかった。地域の方々に協力していただければ、子どもたちの学びが深まると感じた。
- ・ 児童に伝えるためだけではなく、自分自身にとっても勉強になるお話をたくさん聞くことができた。

<保護者>

- ・ 地域の方のネットワークの充実さに驚き、「このことについては誰？」と聞いても、すぐに「○○さん」と返ってきてすごいと思いました。このような機会はとても意味があると思いました。
- ・ 自分たちの知っている建物が出てくるだけでも、興味をもち、家庭での会話のひとつになりそうだと思いました。

<児童>

- ・ 鴨方のことに興味をもった。
- ・ 新しい発見があった。もっと知りたいと思った。

<地域の方・学運協委員>

- ・ 今日小学校側の要望が垣間見えたのでよかったなと思いました。
- ・ 子どもたちが興味をもってくれてよかった。

5 研究の成果

(1) 「持続可能な地域連携の推進」という観点

「地域ボランティアを広げるために、授業で今以上にどんな補助が必要でどのようなことをお願いできそうか職員に尋ねてみよう」「年間計画を簡単に作ってみよう」



**地域連携の進め方や可能性について
視野の広がり**

5 研究の成果

(1) 「持続可能な地域連携の推進」という観点

「こんなふうに組織づくりを進めればいいんだな」

「地域学校協働活動推進員はこういう役割なのだから、もっと他にも連携できるんじゃないか」

「いい大人に出会うことで子どもたちはいい大人になることができるという言葉が印象に残った。」



地域連携の見直し



5 研究の成果

(2) 「教頭の役割についての認識」という観点

①校長の補佐としての役割

- ・ 校長が進めようとする学校経営についての理解
- ・ 話しやすい雰囲気をつくり，課題解決に向けて対話を重ね
当事者意識が高まるように工夫すること

②人と人をつなぐ役割

- ・ 学運協会議への教職員参加の機会設定
- ・ 課題解決のための取組を共有し，地域学校協働活動につなぐこと



6 今後の課題

持続可能な地域連携となるために

- 現在の取組について俯瞰し、改善を図ること。
- 教職員へ学校運営協議会・地域学校協働活動について周知すること。
- 形成した教頭のネットワークを継続すること。
- 地域連携に係る経費に関すること。

ご清聴ありがとうございました

